今回のテーマ

若手教師の指導力を高める工夫

若手教師の占める割合が増えている今、その育成は学校にとってこれまで以上に大きな課題となっている。学校全体の教育活動は、経験の長短を問わず、教師一人ひとりの指導力を総合することによってつくられるからだ。今号は、若手教師が個々の課題を解決することで、指導力を身に付けている研修の事例を紹介する。

事例

大阪府大阪市立清水丘小学校

若手教師が見出した課題を学校の課題として話し合う

4人の教師が課題を見付け それに応じた研究部会を設ける

大阪市立清水丘小学校は20～30歳代前半の教師が約半数を占める。こうした若手教師の指導力を高めるため、2011年度は教職歴4年以下の教師4人が自分の課題を設定し、解決することを校内研修の1つに位置付けた。田村泰宏校長は、研修のねらいを次のように説明する。

「新採であっても、子どもの前に立てば一人前の教師であり、一人で授業をすることが求められます。そこで必要となるのは、課題を見抜く力、課題を解決する力です。これらの力を養う、いわゆる『課題解決学習』に教師も主体的に取り組むために、この研修をデザインしました」

研修では、6～8月を課題設定、9月以降を課題解決に向けた話し合いと実践に充てた（図1）。

課題設定に当たっては、感じた課題や目指す指導などをワークシート（図2）に記入。田村校長はこれを学校の課題に結び付けるために、さまざまなアドバイスを行った。

「若手の課題を学校全体の課題とし、ベテランの先生も共感できるようにすれば、若手研修を全体研修に出来ると考えました」

教務主任の小原正先生は研修の統括者として、若手教師の相談に応じ、日常的な指導を行いながら、課題が整理しやすくなるように働き掛けた。

「私も各課題が学校の課題に結び付くように助言し、ベテランの先生にも指導をお願いしました」

課題は、3人が学習指導（国語と算数、図工、表現活動）、1人が学級づくりと決まり、それに応じて4つの研究部会を設けた。管理職と教務主任を除く全教師がいずれかの部会に属し、月1回、課題を解決する手立てを話し合った（図3）。

若手教師の自立を更に確かなものにするために、人脈をつくる大切さも味わわせた。学外に指導者を求め、指導を受けるようにした。

小原先生は、研修の成果を次のように話す。

「全員で話し合う習慣が生まれ、先生方が互いの思いを交流させる場が増えたと感じます。先生一人ひとりの指導力を高めることで、力のある学校になっていくと思います」

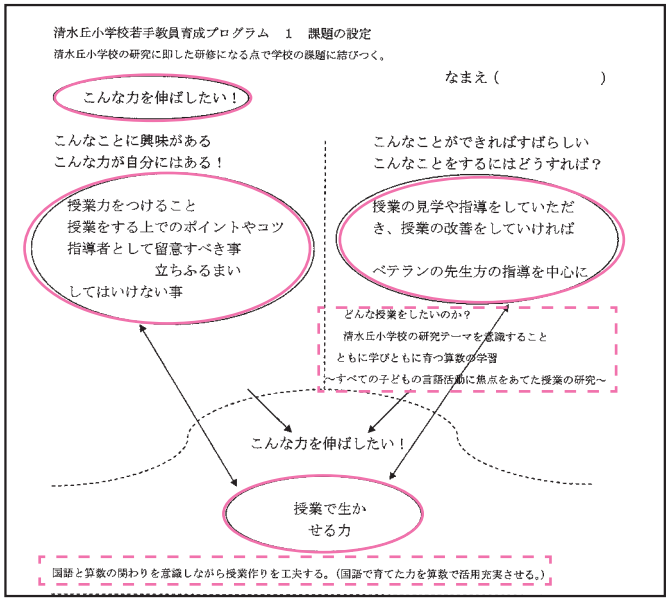
図1 研修の流れ

研修の段階	時期	研修内容
課題設定	６月	●研修開始 ●ワークシートに記入
	７月 ～８月	●田村校長と面談（２回） ●他の教師からアドバイスを受ける ●課題設定
課題解決	９月 ～１月	●４つの研究部会を設け、月１回話し合う ●外部人材に協力を求める
	２月	●「メンターの活用による若手教員の育成」をテーマにした研究発表会を開催

＊同校の資料を基に編集部で作成

ワークシートには教師自身が感じている課題（◯）と、それを見た田村校長からのアドバイス（⬚）が記入される。一人よがりになることなく、ふさわしい課題を設定させるねらいだ

図2 ワークシート（A 先生のもの）



＊同校の資料をそのまま掲載

図3 若手教師４人の課題

	課題	課題設定の理由	課題解決に向けての取り組み内容
A 先生	国語と算数の授業力の育成	教職歴１年目で、３年生の国語と算数の授業を担当。子どもをもっと引き付けられる学習指導がしたいと感じていた	以下の点について、研究部会内で話し合い、算数教育の研究者に話を聞いた ・一問一答にならないような発問の仕方 ・具体物を掲示するなどの教材や教具の工夫 ・板書を整理するための、チョークの使い方　など
B 先生	友だちと学び合う図工の学習	クラスに１人、全盲の子どもがいる。その子どもが主体的に参加できる授業を目指していたが、特に図工の学習指導が難しく、改善したかった	全員が授業に参加する意義を、研究部会内で話し合う。また、特別支援学校を訪問し、教材について具体的なアドバイスを受けた
C 先生	それぞれの力を最大限に活用した表現活動	クラスに１人、肢体が不自由な子どもがいる。その子どもに主体的に表現活動をさせるにはどうすれば良いかが課題だった	研究部会内での話し合いで、クラスの子どもが互いの努力を認め合えるよう、学級掲示物を工夫する方針を固める。肢体の不自由な子どもを、いかに掲示物作成に取り組ませるかについて、特別支援学校に話を聞きに行った
D 先生	最高学年の学級づくり	相手の気持ちを考えずに自分の考えだけを通そうとする子どもがいるなど、クラスとしての団結力に課題があった	研究部会内での話し合いや、他校の教師に話を聞くことで、教師が子どもとなるべく多く、長くかかわることを心掛けた。週３回、15分休みに全員で遊んだり、全ての授業で話し合い活動を取り入れたりした

＊同校の資料を基に編集部で作成

授業研究に学校全体で主体的に取り組むために心掛けていること

大阪市立清水丘小学校校長
田村泰宏
たむら・やすひろ
「若手もベテランも共に学び、指導力を高め合える雰囲気を、学校につくっていきたい」

大阪市立清水丘小学校教務主任
小原 正
おはら・ただし
「全員が気持ちよく教育・研究に取り組めるように、声を掛け、相談に乗るようにしている」

School Data

大阪府大阪市立清水丘小学校

◎1943（昭和18）年開校。大阪市の南部に位置する。地域やPTAとの連携が盛んで、ゲストティーチャーとして授業への協力が行われている。男女平等教育や環境教育、情報教育などの研究も進めている。

校　長　田村泰宏先生
児童数　482人　学級数　17学級（うち特別支援学級2）　教員数　24人
所在地　〒558-0033　大阪府大阪市住吉区清水丘2-9-41
ＴＥＬ　06-6673-1101
ＵＲＬ　http://www.ocec.ne.jp/es/simizugaoka-es/
公開研究会　未定

＊プロフィールは取材時（2012年3月）のものです